

〔専門医による講話〕

- 1 テーマ 「性教育」
- 2 対象 1年次、教職員
- 3 専門医 伊藤 真理子 医師  
(真理子レディースクリニック)

4 実施月 6月

5 内容(キーワード)

月経管理、妊娠、避妊について

性感染症、子宮頸がんワクチンについて

ライフプランと健康管理(プレコンセプションケア)について



評価(あてはまるものに○をつけ、理由を記入)

①健康課題の解決について

とても有効だった

有効だった

課題が残った

<その理由>

\*自分の健康管理は『誰かがやってくれるもの』『(特に産婦人科領域の健康障害は)誰にも相談できない・したくない』とと思っているところがある生徒たちが、学校の実施のねらいとしている『自分の身体は自分しか守れない』ので『困り事は一人で抱え込まないで相談してよい』ということ、感想を見ると理解できていた。

②保健教育における

校内連携について

とても有効だった

有効だった

課題が残った

<その理由>

\*2年生の保健で性教育の取り扱いがあるが、この講話で学んだことを生かして教科指導を行うことで、深化が期待できる。

③校外の関係機関等との連携について(派遣専門医を含む)

とても有効だった

有効だった

課題が残った

<その理由>

\*講師が開業医ということもあり、一般的な診療の流れを教えてください、身体のことでも密かに困っている生徒にとって、婦人科への受診・相談のハードルが下がるのありがたい。

\*全く同じことを話しても、生徒にとっては『医師』の話を聴くのと『教師』の話を聴くのでは、残る印象が違う。

〔受講者の感想など〕

○生理痛は我慢するしかない、大事な日に重なるのも仕方がないと思っていたが、痛みを和らげる方法や生理をコントロールできることがわかって良かった。

○(避妊について)責任が取れないうちは、何もしない!自分の事は自分で守ることが大切だと改めて思った。

○ピルを飲んだり、生理の時に痛み止めを飲んだりすると、将来妊娠できなくなるという情報をずっと信じていたので、間違いを知ることができてよかった。

○子宮頸がんは、若い人はならないと思っていた。しかし、そうではないとわかってショックだった。まだ子宮頸がんワクチンをしていないので、この機会に接種しようと思った。



〔教科やその他の指導との関連性〕

保健体育(保健)

修学旅行や入試の時の月経管理